

## 平成 17 年度個人評価の集計・分析並びに自己点検評価項目等について

## 1. 個人評価の実施状況

## 1)対象教員数, 実施者数, 実施率

表-1 評価実施者数等

対象教員数 (人)	実施者数 (人)	実施率 (%)
5 (助教授 3、講師 2)	5	100

## 2)教員個人評価 (試行) の実施概要

表-2 個人評価専門委員会

評価組織	有明海総合研究プロジェクト個人評価専門委員会
構成	荒牧 軍治 (理工学部教授/プロジェクト長) 瀬口 昌洋 (農学部教授/副プロジェクト長) 大串 浩一郎 (理工学部助教授/副プロジェクト長) 加藤 富民雄 (農学部教授/部門長) 中島 幹夫 (医学部教授/部門長)

## 実施内容と方法：

- ①有明海総合研究プロジェクト個人評価実施基準、同指針に基づき、評価項目とそれらの重みを各自が設定。
- ②実施対象期間を平成 17 年度 1 年間とし、「佐賀大学有明海総合研究プロジェクト平成 17 年度年次報告書」の記載内容に基づき自己点検・評価を行い提出。
- ③評価専門委員会を開催し (出席者：荒牧、瀬口、大串、加藤)、年次報告書及び自己点検評価書を点検・評価し、委員会の評価点、コメントを集約した。

## 添付資料：

- ①有明海総合研究プロジェクト個人評価実施基準
- ②有明海総合研究プロジェクト個人評価実施指針
- ③個人目標申告書 (様式 1)、個人活動実績報告書, 自己点検・評価書 (様式 3)・評価結果 (様式 4) の各フォーマット

## 2. 評価領域別の自己点検評価

教員より提出された自己点検評価結果の一覧を示す。

表-3 個人評価一覧

	研究			組織運営			総合評価点
	重み	評価	達成度	重み	評価	達成度	
A	0.8	5	100	0.2	5	100	4
B	0.8	5	100	0.2	4	80	4
C	0.9	4	80	0.1	3	70	3
D	0.9	4	80	0.1	5	100	4
E	0.8	5	100	0.2	5	100	5

教員各自が評価した総合評価点ならびに達成率の一覧を表3に示す。個人がどの様に評価したかの分布だけが理解できるように、前に示した各分野の実績との関連を取れないように全教員の評価点をランダムに並べ替えた。

自己点検の基準を「優れている」を基準としたものと、「おおむね良好」を基準としたものに分かれており、評価及び達成率の相互比較には意味がない。今年度の評価は、あくまで試行であり、自己の目標に対する自己点検であるので、相互比較は行わないでいただきたい。ただ、このようシステムに従ってどの様な自己評価が行われたかの分布としてとらえて欲しい。今後の自己転換評価をどの様に改善していくかの、基礎資料としていきたい。

### 1) 評価項目ごとの実績集計と分析

有明海総合研究プロジェクトに所属する教員の平成17年度実績を表-4に取りまとめて表示した。

表-4 研究の実績

	著書	学術和文	学術英文	研究報告等	招待講演	一般講演	特許	受賞	競争的資金獲得	
									件数	金額(千円)
イ	0	4	3	0	0	10	0	0	1	500
ロ	2	2	0	0	0	6	0	0	2	3100
ハ	0	0	2	0	0	5	0	0	0	0
ニ	2	1	5	0	0	9	0	0	1	1500
ホ	0	2	1	0	0	1	0	0	2	5900
(合計)	4	9	11	0	0	31	0	0	6	11000

## (1) 研究の領域

### ①論文数

表-5 論文数の分布

	年間一人当たり平均	最少	最多
学術論文和文	1.8	0	4
学術論文英文	2.2	0	5
一般講演発表（学術）	6.2	1	10

- ・新しい職場への着任，プロジェクト研究の立ち上げに相当の時間が割かれたことを考えると十分な研究実績であると言える。

### ②学内外共同研究、国際共同研究

- ・プロジェクト研究自体が共同型の研究である。

### ③競争的資金

- ・4名の教員が50万円から590万円の外部資金を獲得している

### ④センター業務と連携した研究

- ・全員が業務と密接に連携した研究を行っている。

### ⑤教員自己点検評価結果の分析

プロジェクト立ち上げで多くの雑用で時間を割かれたにもかかわらず、研究目標をほぼ到達できたとの評価を行っている。外部評価委員会による評価においても高い評価が得られたことから、各教員による個人評価は妥当なものと判断することができる

## (2) 組織運営の領域

### ①今回個人評価の対象となった専任教員を中心に次のような組織運営活動を実施した

- ・学内の研究者の中から、研究の中核となるコア研究員と学内研究協力者、プロジェクト研究を学内の研究者と共同で実施する学外支援研究者を選任し、プロジェクトの研究体制を確定した。
- ・研究室の確保、実験機器、備品類の購入、有明海観測タワーの設置等の研究体制を年度内に確立するとともに、事務組織、広報等の研究支援・広報体制を整備した。
- ・外部委員による評価を含むプロジェクトの自己点検評価体制、専任教員の個人評価体制を確立し、18年度に実施した。
- ・佐賀県の支援の下に設立された「特定非営利活動法人有明海再生機構」と連携し、地域の関連組織、漁民、市民に対する情報開示、交流を行った。

### ②教員自己点検評価結果の分析

教員全員がそれぞれの役割を果たしたと自己評価している。有明海総合研究プロジェクト個人評価専門委員会は、各人の自己点検評価の結果は妥当な者であると判断した。